

CA ARCserve® Backup for Windows

リリース サマリ

r16



このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2011 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Assured Recovery™
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Linux Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for UNIX Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA ARCserve® Backup Patch Manager
- CA ARCserve® Backup UNIX/Linux Data Mover
- CA ARCserve® Central Host-Based VM Backup
- CA ARCserve® Central Protection Manager
- CA ARCserve® Central Reporting
- CA ARCserve® Central Virtual Standby
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® D2D On Demand
- CA ARCserve® High Availability
- CA ARCserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの **Web** サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 新機能	9
合成フルバックアップ	10
アーカイブ マネージャ	12
Amazon S3 クラウド ストレージへのデータのアーカイブ	14
Eucalyptus プライベートクラウド ストレージへのデータのアーカイブ	15
WinPE システムの惨事復旧	16
SAP R/3 データの Data Mover サーバへのバックアップとリストア	17
Windows オペレーティング システム用の Image Option サポート	17
第 2 章: 利便性の向上と拡張機能	19
Agent for Virtual Machines の拡張ブロックレベル データ分析	20
CA ARCserve D2D の統合	20
クラスタ環境での Windows Server 2008 のサポート	21
Disaster Recovery Option の拡張機能	21
Agent for IBM Informix でサポートされるオペレーティング システムの拡張	21
クラスタ対応アプリケーションの拡張サポート	22
カスタム バックアップ ジョブのスケジュール オプションの拡張	22
ライブラリのログ機能の拡張	23
IBM AIX プラットフォームのサポートの拡張	23
Solaris オペレーティング システム上の非グローバルゾーンをサポート強化	24
Windows x86 および x64 オペレーティング システム上の仮想メモリ割り当てのサポート強化	24
Open Files 保護のための拡張されたライセンス方法	25
移動および名前変更されたファイルに対する保護の強化	25
256 KB および 512 KB のテープ ブロックのサポート	26
Web ベースのオンライン ヘルプ	26
第 3 章: サポートされない機能	27
Windows 2000 オペレーティング システムに対するサポートの廃止	27
BrightStor ARCserve Backup r11.5 からのこのリリースへのアップグレードに対するサポートの廃止	27
Client Agent for NetWare	28

Serverless Backup Option.....	28
CA ARCserve Backup のコンポーネントに対するサポートの廃止	29

第 1 章：新機能

このリリース サマリでは、CA ARCserve Backup r16 の新機能、拡張機能、利便性の向上、および廃止されたサポートについて説明します。

以下のセクションでは、この製品に追加された新機能について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[合成フルバックアップ \(P. 10\)](#)

[アーカイブ マネージャ \(P. 12\)](#)

[Amazon S3 クラウド ストレージへのデータのアーカイブ \(P. 14\)](#)

[Eucalyptus プライベートクラウド ストレージへのデータのアーカイブ \(P. 15\)](#)

[WinPE システムの惨事復旧 \(P. 16\)](#)

[SAP R/3 データの Data Mover サーバへのバックアップとリストア \(P. 17\)](#)

[Windows オペレーティング システム用の Image Option サポート \(P. 17\)](#)

合成フル バックアップ

合成フル バックアップでは、前回のフル セッションとその後の増分セッションを1つのフル バックアップ セッションに合成できます。

合成フル バックアップ オプションを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- 合成フル バックアップを有効にして、合成スケジュールを選択できます。
- 増分セッションを合成して新しい合成フル バックアップ セッションを作成できます。
- データを保証するため、合成スケジュールに基づいてリアル フル バックアップを生成できます。
- スケジュール済みフル バックアップの実行を待機せずに、次のフル バックアップ実行日にリアル フル バックアップを実行できます。
- スケジュールされたデータ合成ジョブの実行を待たずに、オンデマンドの合成フル バックアップをサブミットできます。
- 合成フル バックアップ セッションのスキャンを許可してデータを検証できます。
- ディスク ステージングを使用して、テープ、クラウド、およびディスク デバイスに合成フル バックアップ セッションをマイグレートできます。
- 惨事復旧および Point-in-Time リストアを活用できます。以前のフル/増分セッションを参照しなくても、合成フル バックアップ セッションを使用して惨事復旧を実行できます。
- Point-in-Time リストアを実行できます。

合成フル バックアップは以下のアプリケーションおよびプラットフォームでサポートされています。

- **Client Agent for Windows -- CA ARCserve Backup Client Agent for Windows** によってサポートされているすべての Windows プラットフォーム。
- **CA ARCserve Backup サーバ コンポーネント -- CA ARCserve Backup ベース製品** によってサポートされているすべてのオペレーティング システム。

注: 合成フル バックアップは、プライマリ サーバ、メンバ サーバ、およびスタンドアロン サーバからサブミットできるジョブの種類です。

- 合成フル バックアップ ジョブのサブミット先として指定できるのは、ディスク ステージング デバイスとデータ デデュプリケーション デバイスのみです。ただし、ディスク ステージング処理を使用すると、テープ メディア、クラウド ストレージ、およびディスク デバイスに合成フル バックアップ セッションをマイグレートできます。

以下の点に注意してください。

- 合成フル バックアップに他のエージェント(たとえば、データベース エージェント、アプリケーション エージェント、以前のリリースのエージェントなど)からのデータが含まれている場合は、このリリースの **Client Agent for Windows** によってサポートされているデータのみが合成されます。他のエージェントからのデータが含まれている合成フル バックアップ ジョブを実行すると、元のスケジューリングされた方式が他のエージェントにも適用されます。
- 合成のフル バックアップに関する詳細情報は、**Dashboard** のジョブ バックアップ ステータスレポート、ノード バックアップ ステータスレポート、および保護サイズ合計レポートで見ることができます。
- **注:** 合成フル バックアップ ジョブを実行するには、バックアップするコンピュータ上に **CA ARCserve Backup Agent for Open Files** をインストールしてライセンス登録する必要があります。

アーカイブ マネージャ

このリリースの CA ARCserve Backup には、アーカイブ マネージャと呼ばれる新しいマネージャ コンソールが含まれています。アーカイブ マネージャでは、選択した Windows、UNIX/Linux、および MAC のファイル システムのデータのアーカイブ スケジュールとアーカイブ ポリシーを設定し、アーカイブ ジョブをサブミットできます。

アーカイブ マネージャ コンソールには、以下のタブが表示されます。

- **スタート** -- サブミットするアーカイブ ジョブの種類を指定できます。通常のアーカイブ、デデュプリケーション アーカイブ、ステージング アーカイブ、およびクラウド ストレージへのアーカイブをサブミットできます。
- **ソース** -- アーカイブするデータを指定します。このタブには、Windows、UNIX/Linux、および MAC のクライアント エージェントのみが表示されます。
- **スケジュール** -- ジョブの繰り返し方法を指定します。
注: アーカイブ ジョブではフル バックアップが必要です。[1 度だけ実行] ジョブ スケジュール オプションは利用できません。
- **ポリシー** -- ファイル パターン、ディレクトリ パターン、ファイル 属性、ホスト名 パターン、ファイル サイズ、ファイルが最後にアクセス/変更/作成された時間、およびデータ検証を指定します。
- **デスティネーション** -- アーカイブ ファイルを保存する場所を指定します。このタブには、[デデュプリケーション]、[テープ]、および[クラウド]の各デバイスのみが表示されます

アーカイブ マネージャでは、以下の操作を行うことができます。

- 保存期間を設定して、アーカイブ メディアを再利用セット(テープ メディア)に移動する前またはパージする前(デデュプリケーション デバイスからクラウド デバイスへのバックアップ)の、アーカイブ メディアを使用しない時間の長さを定義します。
- 保持日数を経過したアーカイブ 済みデータをアーカイブ メディアから自動的に削除します。
- アーカイブの対象となるデータを検索してバックアップし、アーカイブ データを元の場所からただちに削除します。
- リストア ジョブでアーカイブ メディアからアーカイブ 済みデータを取得します。

- ジョブ関連のイベントが発生した場合に通知されるよう、電子メール アラートを設定します。たとえば、ジョブが正常に完了した場合、ジョブがユーザによってキャンセルした場合、などです。

ファイルをクラウドにアーカイブするときは、以下の点に注意してください。

- [スタート]タブで[クラウド アーカイブ]オプションがされている。
注: このオプションが選択されていない場合、クラウド デバイスをアーカイブ先として指定することはできません。
- アーカイブ済みファイルはクラウド デバイスに直接バックアップされません。アーカイブ済みファイルは、まずディスク ステージング デバイスにバックアップされ、次にクラウド デバイスにマイグレートされます。

アーカイブのステータスは、以下の **Dashboard** レポートに表示されます。

- ノード アーカイブ ステータスレポート
- ジョブ アーカイブ ステータスレポート
- 保護サイズ合計レポート

Amazon S3 クラウド ストレージへのデータのアーカイブ

このリリースの CA ARCserve Backup では、データをクラウド ストレージにアーカイブすることができます。バックアップ マネージャでステージングを有効にした場合、最終デスティネーションを指定するタブにのみクラウド デバイスを指定できます。

デバイス マネージャを使用して、以下のタスクを実行できます。

- **クラウド接続の管理** -- クラウド接続を設定することにより、クラウド ストレージ サービスにアクセスするように CA ARCserve Backup を設定できます。このリリースの CA ARCserve Backup では、データを Amazon S3 クラウド ストレージにアーカイブすることができます。
- **クラウド ベース デバイスの管理** -- クラウド ベース デバイスを使用することにより、CA ARCserve Backup がデータをマイグレートして格納するクラウド内の場所を指定できます。CA ARCserve Backup では、クラウド フォルダにリンクするクラウド デバイスを作成できます。クラウド デバイスは、新規または既存のクラウド フォルダにリンクさせることができます。クラウド フォルダにパスワード保護が設定されている場合は、パスワードを指定する必要があります。パスワードを指定しないと、クラウド デバイスをクラウド フォルダにリンクさせることができません。

注: クラウド デバイスを作成する前に、まずクラウド接続を設定する必要があります。「クラウド接続の管理」を参照してください。

- **クラウド フォルダの参照** -- CA ARCserve Backup では、デバイス マネージャ ウィンドウから直接クラウド フォルダを参照できます。この機能を使用して、特定のクラウド デバイスを選択し、クラウド ストレージ デバイスからファイルを手動で削除できます。
- **クラウド ベースのレポートの表示** -- CA ARCserve Backup には、クラウド ベースのジョブを管理するのに役立つ新しいレポートが含まれています。
 - バックアップ データの場所レポート
 - メディアのデータ分布レポート
 - RPO (Recovery Point Objective、目標復旧ポイント)レポート

Eucalyptus プライベートクラウド ストレージへのデータのアーカイブ

CA ARCserve Backup のこのリリースでは、Eucalyptus プライベートクラウド ストレージにデータをアーカイブすることができます。CA ARCserve Backup では、以下のバージョンの Eucalyptus に対するデータのアーカイブをサポートします。

- Eucalyptus 2.0
- Eucalyptus 2.0.2

WinPE システムの惨事復旧

このリリースでは、CA ARCserve Backup に Windows Preinstallation Environment (WinPE) のサポートが含まれました。WinPE は、最小の Win32 オペレーティングシステムで、コンピュータへの Windows インストールの準備、ネットワーク共有フォルダからのディスク イメージのコピー、Windows セットアップの開始などを行うことができます。CA ARCserve Backup では、WinPE リカバリ CD を使用して、Windows PE を実行している Windows Server 2003、Windows Server 2008、および Windows 7 システムを惨事から復旧できます。

以下の点に注意してください。

- WinPE Disaster Recovery CD は CA ARCserve Backup インストール DVD に含まれています。この DVD では x86 および amd64 (BIOS のみ) の両方のプラットフォームに対して惨事復旧を実行できるようになりました。

また、EFI/uEFI および IA64 のプラットフォームに対して惨事復旧用に以下のように個別の ISO が用意されています。これは、CA ARCserve Backup インストール DVD の Disaster Recovery ディレクトリの下にあります。

- WinPE_UEFI.iso
- WinPE_IA64.iso

EFI/uEFI または IA64 プラットフォームで惨事復旧を実行するには、まずこれらの ISO から CD または DVD を作成する必要があります。

- WinPE を使用するには、Client Agent for Window および CA ARCserve Backup サーバコンポーネントをこのリリースにアップグレードし、WinPE を実行するために少なくとも 1 GB の物理メモリを確保する必要があります。

WinPE には、環境に関する問題の解決を支援するため、以下のユーティリティが用意されています。

- **ドライバのロード ユーティリティ** -- このユーティリティは、NIC、SCSI、または FC のドライバをロードするために使用します。
- **ネットワークの設定** -- このユーティリティは、IP アドレスの設定を支援するために使用します。
- **iSCSI の環境設定** -- このユーティリティは、iSCSI 接続の設定を支援するために使用します。
- **アクティビティログ** -- このユーティリティは、惨事復旧のアクティビティログを参照するために使用します。
- **トラブルシューティング** -- このユーティリティは、惨事復旧に関する問題を調べるために使用します。

- **実行** -- このユーティリティは、惨事復旧環境で他のアプリケーションを実行するために使用します。

SAP R/3 データの Data Mover サーバへのバックアップとリストア

このリリースの CA ARCserve Backup では、CA ARCserve Backup Data Mover サーバ、プライマリ サーバ、およびメンバ サーバからローカル接続されたデバイスに、UNIX および Linux の SAP R/3 for Oracle のデータを含むバックアップおよびリストア ジョブをサブMITできます。CA ARCserve Backup UNIX/Linux Data Mover を使用して SAP R/3 for Oracle のデータをバックアップすることにより、TCP 通信を介したデータ転送を回避できます。この方法は、バックアップおよびリストアの全体的なパフォーマンスを向上させるのに役立ちます。

この拡張機能の詳細については、「*CA ARCserve Backup for UNIX/Linux Enterprise Option for SAP r/3 for Oracle ユーザガイド*」を参照してください。

Windows オペレーティング システム用の Image Option サポート

CA ARCserve Backup Enterprise Module のこのリリースには、Image Option の拡張されたオペレーティング システム サポートが含まれています。Image Option では、以下の Windows オペレーティング システムのサポートが追加されました。

- Windows Server 2003 x64
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 R2

第 2 章：利便性の向上と拡張機能

このセクションでは、ユーザ インターフェースの変更、ライセンス、セットアップ、展開の変更、マニュアルの変更など、製品の利便性の向上と拡張機能について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Agent for Virtual Machines の拡張ブロックレベル データ分析](#) (P. 20)

[CA ARCserve D2D の統合](#) (P. 20)

[クラスタ環境での Windows Server 2008 のサポート](#) (P. 21)

[Disaster Recovery Option の拡張機能](#) (P. 21)

[Agent for IBM Informix でサポートされるオペレーティング システムの拡張](#) (P. 21)

[クラスタ対応アプリケーションの拡張サポート](#) (P. 22)

[カスタム バックアップ ジョブのスケジュール オプションの拡張](#) (P. 22)

[ライブラリのログ機能の拡張](#) (P. 23)

[IBM AIX プラットフォームのサポートの拡張](#) (P. 23)

[Solaris オペレーティング システム上の非グローバルゾーンをサポート強化](#) (P. 24)

[Windows x86 および x64 オペレーティング システム上の仮想メモリ割り当てのサポート強化](#) (P. 24)

[Open Files 保護のための拡張されたライセンス方法](#) (P. 25)

[移動および名前変更されたファイルに対する保護の強化](#) (P. 25)

[256 KB および 512 KB のテープ ブロックのサポート](#) (P. 26)

[Web ベースのオンライン ヘルプ](#) (P. 26)

Agent for Virtual Machines の拡張ブロックレベル データ分析

CA ARCserve Backup Agent for Virtual Machines のこのリリースには、以下が含まれます。

- Agent for Virtual Machines には、Hyper-V および VMware 仮想マシンに存在するデータをバックアップするための拡張ブロックレベル データ分析が含まれるようになりました。これにより、仮想ディスク上の使用されているデータブロックを識別し、使用されたデータブロックのみをバックアップできるようになりました。この機能を使用することにより、CA ARCserve Backup のジョブ バックアップの総時間が短くなります。

- Agent for Virtual Machines は、仮想互換モード Raw Device Mapping (RDM) で設定された仮想マシンをバックアップできるようになりました。

注: VMware は仮想互換モード RDM の RDM としてのリストアをサポートしません。そのため CA ARCserve Backup では、仮想互換モード RDM をデータストア上の仮想ハード ディスクとしてリストアします。

- Agent for Virtual Machines では、このエージェントがインストールされたすべてのシステムに VMware Virtual Disk Development Kit (VDDK) 1.2.1 を展開できるようになりました。これにより、バックアップ プロキシシステムに VDDK をダウンロードしてインストールする必要がなくなりました。

CA ARCserve D2D の統合

このリリースの CA ARCserve Backup は CA ARCserve D2D と統合され、以下のタスクを実行できるようになりました。

- CA ARCserve D2D のバックアップ データから CA ARCserve Backup のバックアップ セッションを作成します。
- ローカル接続された CA ARCserve D2D コンピュータ、リモートプロキシサーバ、およびリモート共有に保存されている CA ARCserve D2D のバックアップセッションを CA ARCserve Backup メディアにバックアップします。
- CA ARCserve D2D 復旧ポイントの raw バックアップを実行します。
- VMware vSphere 仮想マシン上にインストールされている CA ARCserve D2D コンピュータから CA ARCserve D2D 復旧ポイントをバックアップします。
- CA ARCserve Backup メディアから、ファイルおよびフォルダ レベル単位で CA ARCserve D2D バックアップ データを回復し、アプリケーションレベル単位で Microsoft SQL Server データベースおよび Microsoft Exchange Server メールボックスを回復します。

クラスタ環境での Windows Server 2008 のサポート

このリリースの CA ARCserve Backup ベース製品は、以下の Windows オペレーティングシステム上のクラスタ対応実装をサポートします。

- Windows Server 2008 x86
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 R2

Disaster Recovery Option の拡張機能

このリリースの CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option には、以下の利便性の向上が含まれています。

- このオプションでは、バックアップ サーバ、ローカル デバイス、リモートファイルシステム共有、および別の場所に保存されているマシン固有のデータを使用して惨事復旧処理を実行できます。
- このオプションは、マルチバイト言語を使用するコンピュータの惨事復旧をサポートします。

Agent for IBM Informix でサポートされるオペレーティングシステムの拡張

このリリースの CA ARCserve Backup Agent for IBM Informix では、以下の Windows オペレーティングシステムのサポートが追加されました。

- Windows Server 2003 x64
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 R2

クラスタ対応アプリケーションの拡張サポート

CA ARCserve Backup r16 には、クラスタ対応アプリケーションを保護する以下の拡張機能が含まれています。

- CA ARCserve Backup のこのリリースでは、仮想クラスタを CA ARCserve Backup のドメイン メンバ サーバとして登録できます。CA ARCserve Backup では、この拡張機能によって、Microsoft SQL Server などのクラスタ ノードにインストールされたクラスタ対応アプリケーションに対してバックアップおよび回復操作を実行できます。
- CA ARCserve Backup のこのリリースでは、NEC CLUSTERPRO/ExpressCluster X 3.0 for Windows がサポート対象として追加されました。
- サーバ環境設定ウィザードの機能が拡張され、仮想クラスタを CA ARCserve Backup ドメイン メンバ サーバとして登録できるようになりました。

カスタム バックアップ ジョブのスケジュール オプションの拡張

このリリースの CA ARCserve Backup では、カスタム スケジュール バックアップ ジョブによって生成されたバックアップ データを 1 つのテープに追加できます。[追加]オプションを使用してメディアを再利用することにより、カスタム スケジュール バックアップ ジョブに必要なテープの総数を最小限に抑えることができます。この新機能は、日単位のフル バックアップ データ全体のサイズが比較的小さいバックアップ環境に最適です。

[追加]オプションは、標準バックアップ ジョブと UNIX/Linux Data Mover バックアップ ジョブのスケジュール、およびステージング バックアップ ジョブのマイグレーションフェーズに適用できます。

[追加]オプションを使用するには、ジョブのスケジュールを指定するときに、バックアップ マネージャの[スケジュール]タブで[カスタム スケジュール]を指定します。バックアップ データをメディアに追加する日数として 1 ~ 3650 を指定できます。

注: バックアップのデスティネーションがデデュプリケーション デバイスまたはクラウドストレージの場合、[追加]オプションをジョブに適用することはできません。

ライブラリのログ機能の拡張

このリリースの CA ARCserve Backup では、ライブラリに使用できるブランクテープの数が指定値を下回ったことを通知するようにテープ エンジンを設定できます。[ブランクテープのモニタ]オプションを指定すると、ライブラリに使用できるブランクテープの数が指定値を下回ったときにアクティビティログメッセージが生成されます。このオプションは、単一ドライブおよび複数ドライブのライブラリに適用できます。

IBM AIX プラットフォームのサポートの拡張

このリリースの CA ARCserve Backup Client Agent、CA ARCserve Backup Agent for Oracle、CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle、および CA ARCserve BackupUNIX/Linux Data Mover では、LPAR (Logical Partitioning、論理パーティション) 上の以下の IBM AIX オペレーティングシステムがサポート対象として追加されました。

- AIX バージョン 5.2
- AIX バージョン 5.3
- AIX バージョン 6.1

Solaris オペレーティング システム上の非グローバル ゾーンをサポート強化

CA ARCserve Backup Client Agent for UNIX の本リリースでは、以下のオペレーティング システムにおいて、Solaris の非グローバル ゾーンをサポートが拡張されています。

- Solaris SPARC 10
- Solaris 10 (x86、x64)

CA ARCserve Backup for UNIX Agent for Oracle の本リリースでは、以下のオペレーティング システムにおいて、Solaris の非グローバル ゾーンをサポートが拡張されています。

- Solaris SPARC 10
- Solaris 10 (x86)

CA ARCserve Backup for UNIX/Linux Data Mover の本リリースでは、以下のオペレーティング システムにおいて、Solaris の非グローバル ゾーンをサポートが拡張されています。

- Solaris SPARC 10

Windows x86 および x64 オペレーティング システム上の仮想メモリ割り当てのサポート強化

CA ARCserve Backup の本リリースには、Windows x86 および x64 のオペレーティング システムにおいて、Large Address Aware (大きいアドレスの処理) 機能がサポートされています。Large Address Aware 対応のアプリケーションとして、CA ARCserve Backup では、Windows x86 オペレーティング システム上で 3GB までの仮想メモリ、Windows x64 オペレーティング システム上で 4GB までの仮想メモリにアクセスできます。

Windows x86 オペレーティング システムでは、アクセス可能なメモリ スイッチを変更する必要があります。Windows x86 バージョンを実行しているコンピュータに CA ARCserve Backup サーバ コンポーネントをインストールした場合、この拡張機能によって、CA ARCserve Backup テープ エンジンの全体的なパフォーマンスを向上させることができます。Windows x64 オペレーティング システムの場合、設定は何も必要ありません。

Open Files 保護のための拡張されたライセンス方法

CA ARCserve Backup のこのリリースでは、2 つのライセンス方法で Open Files をバックアップおよびリストアできます。

- クライアントコンピュータに CA ARCserve Backup Agent for Open Files をインストールします。

この方法では、Agent for Open Files と Microsoft Volume Shadow Copy Service を使用して、Open Files を保護できます。この方法を使用した場合、Agent for Open Files のライセンスにより、30 日間の試用期間が提供されます。

- CA ARCserve Backup サーバに CA ARCserve Backup Agent for Open Files のライセンスを適用します(クライアントコンピュータにエージェントをインストールしないようにしてください)。

この方法では、Agent for Open Files の代わりに Microsoft Volume Shadow Copy Service を使用して、Open Files を保護することができます。この方法を使用した場合、30 日間の試用期間は提供されません。

移動および名前変更されたファイルに対する保護の強化

CA ARCserve Backup Universal Agent のこのリリースは、ボリューム内でファイルおよびフォルダを移動および名前変更した場合にアーカイブ ビットをオンにするように機能拡張されました。フォルダを移動または名前変更した場合、Universal Agent はそのフォルダに含まれるすべてのオブジェクト(サブフォルダとファイル)のアーカイブ ビットをオンにします。この機能強化により、CA ARCserve Backup は、移動または名前変更されたファイルおよびフォルダに対しても増分バックアップを確実に実行します。また、CA ARCserve Backup はデフォルトでこのように動作します。デフォルトの動作を変更する方法の詳細については、「[管理ガイド](#)」の「[トラブルシューティング](#)」を参照してください。

注: 保護対象とする移動または名前変更されたファイルを含むすべてのコンピュータ上に CA ARCserve Backup Agent for Open Files をインストールしてライセンス登録する必要があります。

256 KB および 512 KB のテープ ブロックのサポート

CA ARCserve Backup のこのリリースには、256 KB および 512 KB のテープ ブロックのサポートが含まれます。この機能拡張により、CA ARCserve Backup はより大きいテープ ブロック サイズを使用してテープドライブにデータを書き込むことができます。これにより、デバイスの全体的な効率化を実現することができます。

デフォルトでは、CA ARCserve Backup は、64 KB のテープ ブロックでデータをフォーマットするか、CA Technologies がライブラリ用に認定する最大のブロック サイズでフォーマットされます。ブロック サイズを 256 KB または 512 KB に増加させるには、CA ARCserve Backup がライブラリ内のすべてのドライブに適用するライブラリ用レジストリ キーでテープ ブロック サイズを定義します。

注: オートローダおよびテープ ライブラリへのバックアップのデフォルトの動作は変更することができます。

Web ベースのオンライン ヘルプ

CA ARCserve Backup のこのリリースにはオンライン マニュアル選択メニューが含まれます。これは、インターネットを通じてアクセスするヘルプ システムおよび PDF ファイルから構成されます。Web ベースのオンライン ヘルプでは、CA ARCserve Backup 製品の更新をインストールしなくても、CA ARCserve Backup のマニュアルの最新バージョンにアクセスできます。マニュアル選択メニューは、オンライン バージョンがデフォルトです。

しかし、ローカル ソースのヘルプを使用するように[マニュアル環境設定]ダイアログ ボックスで設定を行うことで、マニュアル選択メニューをダウンロードしてインストールし、オンライン ヘルプと PDF ファイルをローカル デスティネーションから参照するようにすることもできます。

第 3 章: サポートされない機能

以下のセクションで説明されている機能は、現在の CA ARCserve Backup r16 ではサポートされていません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Windows 2000 オペレーティング システムに対するサポートの廃止 \(P. 27\)](#)

[BrightStor ARCserve Backup r11.5 からのこのリリースへのアップグレードに対するサポートの廃止 \(P. 27\)](#)

[Client Agent for NetWare \(P. 28\)](#)

[Serverless Backup Option \(P. 28\)](#)

[CA ARCserve Backup のコンポーネントに対するサポートの廃止 \(P. 29\)](#)

Windows 2000 オペレーティング システムに対するサポートの廃止

CA ARCserve Backup for Windows r16 では、Windows 2000 オペレーティング システムのサポートが廃止されました。この変更はすべての CA ARCserve Backup r16 エージェントおよびオプションに該当します。

BrightStor ARCserve Backup r11.5 からのこのリリースへのアップグレードに対するサポートの廃止

CA ARCserve Backup for Windows r16 では、BrightStor ARCserve Backup r11.5 からのアップグレードはサポートされていません。

以下の製品からこのリリースにアップグレードできます。

- CA ARCserve Backup for Windows r15 -- General Availability (GA) リリースおよび最新サービス パックすべてを含む。
- CA ARCserve Backup for Windows r12.5 -- GA リリースおよび最新サービス パックすべてを含む。
- CA ARCserve Backup for Windows r12 -- GA リリースおよび最新サービス パックすべてを含む。

Client Agent for NetWare

CA ARCserve Backup のこのリリースには、NetWare ベースのオペレーティングシステムに対するクライアント エージェント サポートは含まれていません。

NetWare システム オブジェクトは、バックアップ マネージャのソース ディレクトリ ツリーおよびリストア マネージャのソース ディレクトリ ツリーのクラシックビューから削除されました。

Serverless Backup Option

このリリースの CA ARCserve Backup Enterprise Module には、Serverless Backup Option は含まれていません。

CA ARCserve Backup のコンポーネントに対するサポートの廃止

以下のリストでは、CA ARCserve Backup r16 のコンポーネントに関して廃止されたサポートについて説明します。

- **CA ARCserve Backup Client Agent for Windows** -- このリリースでは、Windows 98、Windows Me、および Windows 2000 のオペレーティングシステムを実行するコンピュータの保護がサポートされなくなりました。
- **CA ARCserve Backup Client Agent for UNIX** -- このリリースでは、HP 11.22 IA オペレーティングシステムのサポートは含まれません。
- **CA ARCserve Backup Client Agent for Linux** -- このリリースでは、Redhat Enterprise Linux 3 オペレーティングシステムのサポートは含まれません。
- **CA ARCserve Backup Agent for Informix** -- このリリースでは、Informix 11.0 以降のオペレーティングシステムのみがサポートされます。
- **CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server** -- このリリースでは、Microsoft Exchange Server 2000 がサポートされなくなりました。
- **CA ARCserve Backup Agent for Sybase** -- このリリースでは、Sybase 15 以降のみがサポートされます。
- **CA ARCserve Backup ベース製品** -- CA ARCserve Backup ベース製品では、Microsoft Windows EBS (Essential Business Server) との統合がサポートされなくなりました。
- **CA ARCserve Backup Agent for Oracle** -- このリリースでは、Oracle 9i 以降のみがサポートされます。

注: この更新の影響を受けるのは、Windows、UNIX、および Linux プラットフォームにインストールされた Agent for Oracle です。

- **CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle** -- このリリースでは、Oracle 9i 以降のみがサポートされます。
- **CA ARCserve Backup Tape Library Option** -- このリリースでは、オプティカルライブラリへのデータのバックアップがサポートされなくなりました。テープライブラリ、テープ RAID ライブラリ、および CA ARCserve Backup 仮想ライブラリは引き続きサポートされます。
- **CA ARCserve Backup Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle (UNIX/Linux)** -- このリリースでは Red Hat Enterprise Linux 3.x がサポートされなくなりました。
- **CA ARCserve Backup UNIX/Linux Data Mover** -- CA ARCserve Backup UNIX/Linux Data Mover では Red Hat Enterprise Linux 3.x がサポートされなくなりました。

